

「支え合いのまち千葉 推進計画推進計画（第5期地域福祉計画）【原案】」に対する意見の概要と市の考え方

※ご意見は可能な限り原文を尊重して公表させていただいております。

※ページ数はパブリックコメント実施時のものです。

No.	該当箇所	意見の概要	市の考え方	計画への反映	頁
1	市の取り組み	<p>施策の方向4 誰もが安心して暮らせる地域づくり 主な取り組み事業 ○避難所運営委員会の設立育成について ・大規模災害の発生時の初期段階においては、地域住民相互の助け合い活動が、最も重要な活動であることは、27年前に発生した阪神淡路大震災の経験からも異論のないところである。 よって、上記の○避難所運営委員会の設立育成については、次のように改訂すべきである。 ○大規模災害発生時の初期段階における地域住民相互の助け合い活動体制確立のための支援、および避難所運営委員会の設立育成</p>	<p>ご意見をいただきありがとうございます。事業名（避難所運営委員会の設立育成）につきましては、他の計画との整合性を図るため、現状のままとさせていただきます。なお、いただいたご意見は、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p>	—	—
2	市の取り組み	<p>施策の方向4 誰もが安心して暮らせる地域づくり 主な取り組み事業に次の項目を5項目目として追加する。 ○交通安全に関わる諸事業（活動）の強化、支援 近年、交通事故死者が減少傾向にありますが、事故死0を目指して、関連事業の強化、及び諸活動の強化・支援が必要である。</p>	<p>ご意見のとおり、交通安全に関わる諸事業（活動）の強化、支援は重要であると考えます。 支え合いのまち千葉推進計画(第5期千葉市地域福祉計画)【原案】（要旨）p20施策の方向4の主な取組事業は、要旨として抜粋しているものになりますので、支え合いのまち千葉推進計画(第5期千葉市地域福祉計画)【原案】では、P109 第5章 市の取組み No6 7交通安全総点検や、P113 No8 5交通安全対策などを掲載し、交通安全に関わる諸事業（活動）を推進して参ります。</p>	—	—
3	市の取り組み	<p>「地域共生社会の実現」 言葉はカッコ良いし、めざすべきとは思いますが、実際はなかなか進むものではありません。 障がいのあるお子さんをお持ちの保護者のかたと話をすると、まず、小学校にあがる時に、特別支援教育を薦められると言われます。普通学級に入るには、親の相当の努力と覚悟が必要です。学校との交渉を粘り強くしなければいけないからです。同じ境遇の人が少ない中、孤独に奮闘しなければなりません。しかし、地域の学校に通えたかたは、地域の子どもとして地域の中で認識してもらえて、良かったという感想を持っている方が事実です。 地域で、色々な子どもがいると認識できていれば、今後起こりうる大規模災害の時でも、あの子はだいじょうぶかな？と頭に浮かべてもらえます。地域の繋がりがづくりが、共生社会の第1歩とおもいます。 共生社会の実現には、様々な子どもが地元の学校にかよい、あんしんしてくらしに行けることが条件です。 教育委員会にも、この点を認識していただき、普通学級に通うことも当たり前の選択肢になるように環境を整えていただきたいとおもいます。</p>	<p>障がいのあるお子様が、普通学級に通うか、特別支援学校に通うかは、保護者と学校関係者との調整によるところが大きいのとは思いますが、お子様にとって一番よい選択ができるように教育委員会と情報共有を図り、対応していくことが重要であると考えます。 また、養護教育センターでは、「特別な支援が必要な子供の就学説明会」を実施し、特別支援学校、特別支援学級、通常学級等の多様な学びの場の正確な情報提供を行っています。</p>	—	—
4	市の取り組み	<p>「包括的な支援体制の構築」 重層的支援体制整備事業というのは、県の中核地域生活支援センターと同等の機能を指すのではないかと思います、以前からずっと千葉市に必要と思っていました。 どんな相談も丸ごと受け止める相談支援体制をしっかりとつくっていただきたいと思います。</p>	<p>千葉県の中核地域生活支援センターでは、生活課題を抱える世帯からのあらゆる相談について、関係機関と連携しながら、分野を問わず包括的に受け止め、支援を行うとともに、自ら相談に行く力がない世帯に対しても、アウトリーチを通じて適切な支援につなげるなど、高い専門性に基づいた相談支援を実施していると認識しております。 本市においても、ひとりぼっちにしない、断らない相談支援体制を構築するため、同センターの取組みを参考にしつつ、本市に適した包括的な支援体制の構築を目指して参ります。</p>	—	—

「支え合いのまち千葉 推進計画推進計画（第5期地域福祉計画）【原案】」に対する意見の概要と市の考え方

※ご意見は可能な限り原文を尊重して公表させていただいております。

※ページ数はパブリックコメント実施時のものです。

No.	該当箇所	意見の概要	市の考え方	計画への反映	頁
5	市の取り組み	<p>市の取り組みの中に、20歳前後の若者への支援や、活用が入ると良いと思います。</p> <p>コロナ禍で、心を病む若者も多いと聞きますし、逆に、力があるのに地域に生かし切れていない若者をどうするのかの、視点を入れるべきです。</p> <p>どうしても、高齢者や障がい者、乳幼児のいる世帯などに、福祉の矛先が集中してしまいがちです。コロナ禍で浮き彫りになった方たちのことを今回の計画にぜひ、もりこんでください。</p>	<p>置かれた状況や年齢を問わず各種相談を包括的に受け付け、適切な支援に早期に繋げるため、民間事業者のノウハウを活用し、本市に適した相談支援体制のあり方を検討して参ります。</p> <p>また、若者の活用については、住民同士の助け合い・支え合いによる地域運営を持続可能なものとするためには、若い世代の参加が必要だと考えております。このため、新たに、P89 第5章 市の取り組み No5 市民自治の推進を追加し、若い世代を対象としたワークショップを実施し、若い世代の参加を促す環境整備やきっかけづくりについて検討するほか、市社会福祉協議会と連携して、ボランティア活動や地域活動に関する情報の発信などを通して活動意欲の高い若者の参加を呼び掛けて参ります。</p>	○	P89
6	市の取り組み	<p>地域福祉の担い手として、中学生の活用をどこかにいれてほしいと思います。ほぼ大人に近い体格であり、考える力もあります。いまは、中学生というくくりだけで、管理されたり保護されたりする立ち場にとどまっていますが、たよりにしても良いのではないのでしょうか？</p> <p>放課後や土日には部活中心ではなく、地域活動も推奨するような動きを学校が積極的に作るべきです。</p>	<p>この2年間は新型コロナウイルス感染症の影響で十分な活動はできていませんが、これまで、各中学校ごとに地域での様々なボランティア活動に取り組んでおります。</p> <p>各地区の要望や要請があれば各中学校ごとの判断で地域活動に参加することは可能です。まずは、各地域団体と中学校との連携を図ることが必要であると考えます。</p> <p>また、「将来における地域福祉の担い手」の育成も重要であることから、千葉市ボランティアセンターでは、小・中学生を対象とした福祉教育冊子の配布やボランティア講座の開催などを通じ、子ども達に対して様々な学習や体験の機会を与え、福祉の心を育む取り組みを行っております。</p>	—	—
7	地域の取り組み	<p>以前は区の推進協議会に傍聴にいらしていましたが、あまりにも計画をつくることだけで終わっているのが、意義を感じることができなくなり、行かなくなりました。最近の動向は存じ上げませんが、区の計画は、つくって検証しても、この活動は、計画の中の、どの部分にあたるのか探り、やったことにしよう、と言うような検証の仕方になっているのではないかと危惧します。計画と実践が乖離しているという事です。</p> <p>地域で暮らしていても、区の計画を一般住民が知ることはほとんどないですし、社協地区部会も頑張っているかもしれませんが、関わっている方の範囲でしか、福祉計画があることのメリットを実感できていないと思います。</p> <p>計画を地域に下ろして、みんなを動かして行ける人材が必要です。すでに生活支援コーディネーターもいますが、どの役割をはたしているのか、見えていません。計画は立派だけれど、中身を実感できない、という事の無いように進めて行っていただきたいと思ます。</p>	<p>区支え合いのまち推進計画は、社会福祉協議会地区部会が中心となり、町内自治会や民生委員・児童委員をはじめとする様々な関係者・団体が参画する区支え合いのまち推進協議会において策定したものです。計画の周知や推進体制などに課題があるものと考えておりますので、より多くの市民に本計画を知っていただくための手法や、推進体制のあり方等について引き続き検討して参ります。</p> <p>また、ご指摘のとおり、計画を地域で推進していくためには、地域福祉活動・ボランティア活動の担い手やリーダーとして活躍できる人材が不可欠であると考えておりますので、ちばし地域づくり大学校を開催するとともに、シニアリーダー講座、認知症サポーター養成講座、ボランティア入門講座などの取組を引き続き実施して参ります。</p>	—	—

「支え合いのまち千葉 推進計画推進計画（第5期地域福祉計画）【原案】」に対する意見の概要と市の考え方

※ご意見は可能な限り原文を尊重して公表させていただいております。

※ページ数はパブリックコメント実施時のものです。

No.	該当箇所	意見の概要	市の考え方	計画への反映	頁
8	計画全般	<p>“第5期地域福祉計画の策定にあたっては、・・・コロナ禍というピンチをチャンスととらえ、住民同士の支え合いが継続、発展するよう、より柔軟な方向に変革していく視点を持つことが必要です。”と記載されています。この「ピンチをチャンスととらえ」ですが、意味するところは、平時には潜在化していた事象が、異常時に顕在化してくるので、より実態に合った対策を立て、対応できるということだと思えます。</p> <p>コロナ禍では、支え手同士の連絡・指示や支え手と受け手の連絡はオンライン等で可能ですが、支え手と受け手の実際のやりとりは対面となる場合が多いため、工夫が必要です。平時では対応できていた対策も、異常時には対応不可で全く異なった対策が必要であるということが分かったということが収穫だと思います。“なお、新型コロナウイルスの感染拡大により、「住民が集い、支え合う」という福祉の根幹が揺らぎ、様々な地域活動が休止や中止を余儀なくされているため、計画の策定について、配慮が必要な状況です。”と記載されています。その通りだと思います。地震、台風など自然災害（異常時）に対しては、住民の支え合い活動は有効ですが、人との接触を避けなければならない感染症下では、地域の取組みとしての支え合いなどは不向きだと思います。人と人が接触しないで支え合えるものもあるかもしれません。これらを分類して、その感染症対策を、この推進計画とは別の“場”又は“別冊”で論じた方が適切かと思えます。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響は地域福祉活動にも多大な影響を及ぼしており、これからの活動の実施に際しては、新型コロナウイルス感染症への対応は不可欠であると考えております。このため、本計画では、ウィズコロナ、アフターコロナへの対応を反映したものとすることと整理しております。</p>	—	—
9	各種統計データ	<p>データは、令和3（2021）年度千葉市WEBアンケートと記載されています。一つのデータであることは間違いありませんが、千葉市民の意識調査という点では、結果の評価とサンプリングの方法において疑問を感じます。②地域福祉活動の参加状況において、全体の7割の人に参加意向があると結論づけています。この結論は、“参加したことがある”と“機会があったら参加したい”を合わせると7割になる、とすべきでしょう。参加したことがあると回答29.1%の人が今後も参加したいと想定するには無理があります。二度と参加したくないと思っている人がいるかもしれません。</p> <p>次に、サンプリングの方法が実態とかけ離れているような気がします。そもそも、千葉市のホームページ（HP）にアクセスして、WEBアンケートに回答する人は、千葉市の行政に関心を持っている人です。このような人たちが、対象となる千葉市民に占める割合がどの程度かを把握する必要があると思えます。</p> <p>さらに、千葉市行政に関心があり、千葉市HPアクセスする人たちであるにも関わらず、①地域福祉活動の認知状況において、47.9%の人が地域でどのような活動が行われているか「わからない」と回答していることの方が、市の広報活動上問題だと思います。</p> <p>なお、回答の順序が資料編とは異なり、比率の高い順に並べ替えています。複数回答可としている設問に対して好ましいデータ処理（見せ方）とは思えません。さらに、“わからない”と回答する人は複数回答ができない設問の仕方も疑問符がつきます。</p>	<p>「②地域福祉活動の参加状況」の評価については、ご意見のとおり修正いたします。</p> <p>質問内容や公表の仕方については、今後検討して参ります。</p>	○	P18

「支え合いのまち千葉 推進計画推進計画（第5期地域福祉計画）【原案】」に対する意見の概要と市の考え方

※ご意見は可能な限り原文を尊重して公表させていただいております。

※ページ数はパブリックコメント実施時のものです。

No.	該当箇所	意見の概要	市の考え方	計画への反映	頁
10	市の取組み	<p>取組方針Ⅲ「社会資源の創出を促進する」、施策の方向1 多様な主体との連携は、抽象的な表現で理解が難しい。地域共生社会の実現のためには社会資源の創出が必要であり、そのためには多様な主体との連携が必要である、という流れになりますが、社会資源とは何を指していますか？取組方針Ⅰ、Ⅱのようにもう少し平易な言葉に置き換えられませんか？</p> <p>多様な主体とは、社会福祉法人、企業・学校、NPO法人を指し、(必要ならば)「新たなプラットフォームを形成する」との記載があります。難しい表現です。</p> <p>P.132の【現状や課題】及び【今後の取組方針】から推察すると、「社会資源の創出」とは、少子高齢化により従前の地域福祉活動の担い手が不足し、これを補うために各種団体間のネットワークを構築する、ということになりますが、この理解で正しいでしょうか？</p>	<p>本計画における社会資源は、生活課題の解決を担う制度、サービス、施設、その提供主体である事業者や各団体、そこで活動する人や場所など、地域福祉活動に関わるものの総称として整理しております。</p> <p>社会資源の創出については、お見込みのとおりです。</p>	—	—
11	市の取組み	<p>施策の方向1 持続可能な地域づくりの主要施策(1)として、コロナ等の感染症禍における地域福祉活動の再開・継続への支援をクローズアップしていますが、コロナ感染症は異常時です。異常時は異常時の特別な対応・取組みが必要です。この冊子は、平時の対応を示すべきと考えます。したがって、主要施策(3)(4)を(1)(2)とし、(2)を(3)とした方がよいと思います。コロナ禍の地域福祉活動再開・継続は喫緊の問題かもしれませんが、この冊子としては、取り上げず、「異常時の支え合いの仕方」として別の冊子か、別冊とした方がよいと思います。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響は地域福祉活動にも多大な影響を及ぼしており、これからの活動の実施に際しては、新型コロナウイルス感染症への対応は不可欠であると考えております。このため、本計画では、ウィズコロナ、アフターコロナへの対応を反映したものとすることと整理しております。</p>	—	—
12	市の取組み	<p>デジタルデバインド解消のため、高齢者向けにスマホ講座を開催し、その講座内容が記載されています。講座内容は一般的であり携帯会社でも行われているものです。高齢者がデジタルに慣れない理由は二つあると思います。端末(機種)の更新スピードが早く、端末の操作に慣れないこと、操作トラブルになった時に教えてもらえる人が身近にいないこと、です。頻繁に要求されるアプリの更新など、年金生活者が高額料金を支払って大容量の通信(いわゆるギガ)を契約することは避けたいものです。携帯会社主催の講座では望めない内容の講座としていただきたいと思います。</p>	<p>いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。</p>	—	—
13	市の取組み	<p>説明を“コラム”という形で表現することは見やすいし、わかりやすいことから良い手法だと思います。しかし、それぞれのコラムに文字がぼやけている部分があります。他の箇所から転載(コピペ)による結果だと思いますが、何らかの処置をした方がよいと思います。</p>	<p>ご意見のとおり、修正いたします。</p>	○	P88等
14	市の取組み	<p>【現状や課題】において、“地域団体の中心的役割を担う役員やリーダーの高齢化も進んでおり、若い世代の参画や後継者の育成が必要です”と記載されています。先ず、高齢者社会が進行していますから、高齢者には肩書のある“長”や“リーダー”ではなく、長老 又はご意見番としての参加をお願いし、そして少し若い世代に肩書のある“長”になってもらうことが、より若い世代の参画を促すことになると思います。</p>	<p>住民同士の助け合い・支え合いによる地域運営を持続可能なものとするためには、若い世代を含む幅広い方々の参加が必要だと考えておりますので、効果的な周知方法や工夫について引き続き検討して参ります。</p> <p>若者が地域で活躍していただけるようにするため、市社会福祉協議会と連携し、ボランティア活動や地域活動への参加など、地域に対して力を活用していただけるように周知して参ります。</p>	—	—

「支え合いのまち千葉 推進計画推進計画（第5期地域福祉計画）【原案】」に対する意見の概要と市の考え方

※ご意見は可能な限り原文を尊重して公表させていただいております。

※ページ数はパブリックコメント実施時のものです。

No.	該当箇所	意見の概要	市の考え方	計画への反映	頁
15	成年後見制度利用促進基本計画	枠外タイトルがページの右端にある場合、“第6章 成年後見制度利用促進”となっており、“基本計画”が脱落しています。修正した方がよいと思います。すべてのページで枠外タイトルの表示がページごとに左右入れ替わっていますが、見開きの冊子を想定しての処置ですか？	ご意見のとおり、修正いたします。 枠外タイトルの表示がページごとに左右を入れ替えているのは、見開きの冊子でそれぞれ外側に表示されるようにするための配置です。	○	P139 ～ P153
16	成年後見制度利用促進基本計画	<成年後見制度の主な内容>において、法定後見制度と任意後見制度の2種類があります、と記載し、法定後見とは何かの説明はありませんが、任意後見とは何かの説明がありません。追記願います。	下記のとおり、法人後見の説明の後に任意後見人の説明を追記します。 任意後見は、判断能力が低下した場合に備えて、ご自身が希望する生活に向けた手続きや金銭管理を委ねる後見人（任意後見人）を公正証書による任意後見契約で予め決めておく制度です。本人の判断能力が低下し、家庭裁判所で任意後見監督人が選任されて初めて任意後見契約の効力が生じます。	○	P139
17	成年後見制度利用促進基本計画	知的障害者数（療育手帳所持者）は、平成28年以降、増加しているとの記述があります。高齢者人口、認知症高齢者数、精神障害者数、精神通院医療受給者証所持者等の増加は、何となく理解できますが、知的障害者数の増加理由が推測できません。差支えなければですが、教えていただけるとありがたいです。	千葉市に限らず、全国的に療育手帳所持者数は毎年増加傾向にあります。 これについて厚生労働省は、「知的障害は発達期にあらわれるものであり、発達期以降に新たに知的障害が生じるものではないことから、身体障害のように人口の高齢化の影響を大きく受けることはない。以前に比べ、知的障害に対する認知度が高くなり、療育手帳取得者の増加が要因の一つと考えられる。」と分析をしています。	—	—
18	成年後見制度利用促進基本計画	P.143～P.146の、ウ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は、資料編に掲載し、概要だけを記載した方が見やすいと思います。他の事項を含め、状況の記載が多いため、重要な（2）課題が霞んでしまっているような気がします。そして、課題にもう少し紙幅を割いた方がよいと思います。	ご意見をいただき、ありがとうございます。 いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。	—	—
19	取組事例	【活動の工夫】周知についての取材者は、どのような方でしょうか。この文章からだけでは、その意図するところの推測が難しいのですが、“芋掘りイベント”についての記述のところ、“集客”という言葉を使っていることに違和感を覚えます。地域福祉活動の取組事例に関する記述ですから、“たくさんの人が集まること”が判明したようです”が表現として適切かと思えます。	ご意見のとおり、修正いたします。	○	P154
20	その他	パブリックコメント手続きの資料説明にビデオという手法を用いたことに対しては素晴らしいことだと思います。ただし、次の点に配慮していただけるともっと素晴らしい説明になると思います。 まず、40分は長いように思います。半分の20分であれば、一気に通して視聴できると思います。 次に、説明を文語調ではなく、平易な言葉使いであった方が馴染みやすいと思います。例えば、“普遍化”は、“広く行き渡らせ”、“主要施策カッコ1”は“主要施策の一つ目”の方が、聴きやすいと思います。ビデオは、“支え合い”ということをも市民にアピールするという市民向けであれば、説明する立場ではなく、聴く立場で制作していただければ、もっと良いアピールとなるのではないかと思います。 推測ですが、添付ビデオはパブリックコメント手続きのためではなく、市役所内部説明用に製作されたものと思われます。パブリックコメント手続に添付するのであれば、再編集をして欲しかった。	ご意見をいただき、ありがとうございます。 地域福祉計画の説明動画の配信は、今回が初めての試みで、手探りの中、自作での挑戦となったため、物足りない部分があったかもしれません。いただいたご意見は、今後の取組みの参考にさせていただき、視聴しやすい動画に改善していければと考えております。	—	—

「支え合いのまち千葉 推進計画推進計画（第5期地域福祉計画）【原案】」に対する意見の概要と市の考え方

※ご意見は可能な限り原文を尊重して公表させていただいております。

※ページ数はパブリックコメント実施時のものです。

No.	該当箇所	意見の概要	市の考え方	計画への反映	頁
21	市の取組み	<p>少子高齢化が進む中で、重要な課題だと思えます。</p> <p>「ひとりぼっちにしない、断らない相談支援体制」などの文言に、温かいものを感じました。何か困難を抱えても、支援を求めることを思いつかないことがあります。支援してもらえるかどうかわからないので、最初からあきらめている人もいます。往々にして、支援の必要な人ほど、支援を求める力がなかったり、あるいは困難な状況になってしまうとその状況が支援を求める力をそいだりします。そこで、支援を求めるファーストアプローチのハードルが低いことが大事だと思えます。</p> <p>また、困っていない時点で、困ったときに支援があることが十分に周知されていてほしいと思います。間違った相談窓口へ行ってしまったのではないかと不安に思い、相談をしないでしまう人もいます。</p> <p>あんしんケアセンター、生活自立仕事相談センター、障害者基幹相談支援センター、子育て支援館、母子健康包括支援センターなどのどこに行っても一旦つながることができ、適切なセンターへつないでもらえるような形にするなど、相談者の安心を確保するように考えていただきたいと思えます。</p>	<p>包括的な支援体制の構築には、支援機関同士の連携が不可欠となりますので、断らない相談支援体制を構築するため、本市に適した包括的な支援体制の構築を目指して参ります。</p>	—	—
22	市の取組み	<p>第3章 第5期計画</p> <p>包括的な支援体制の構築として重層的支援体制整備事業があげられている。分野を超えた相談や支援は今後ますます増えていくと思われるが、現体制では連携が十分できているとは言えないので、最初の相談にあたる場所は、千葉県の中核地域生活支援センターのような窓口の設置が有効だと考える。</p>		—	—
23	市の取組み	<p>・断らない相談体制</p> <p>貧困や精神疾患等、複数の困難を抱えている方への相談体制（生活自立・仕事相談センター、引きこもり支援センター等）についてはアウトリーチができる人員の確保を求めたい。</p>		—	—
24	市の取組み	<p>現在の制度の中にある社協のコミュニティソーシャルワーカーや、高齢分野の生活支援コーディネーター、障がい関係の基幹相談センター、生活困窮者のための生活自立・仕事相談センターの連携体制を充実させてほしい。</p>		—	—
25	市の取組み	<p>第4章 市の取り組み</p> <p>(2) 施策の展開</p> <p>多様な居場所づくりは喫緊の課題だが、場所の確保に苦勞しているとの話を聞く。市民団体にとって会場費の捻出が厳しいので、市の施設を無料で貸し出すなどの対応が必要だと思う。</p>		<p>地域福祉活動の拠点を確保するため、施設の目的に支障をきたさない範囲で市の施設を開放するとともに、社会福祉施設における交流スペースや、空き家等の活用についてコミュニティソーシャルワーカーや生活支援コーディネーター等が支援します。</p>	—

「支え合いのまち千葉 推進計画推進計画（第5期地域福祉計画）【原案】」に対する意見の概要と市の考え方

※ご意見は可能な限り原文を尊重して公表させていただいております。

※ページ数はパブリックコメント実施時のものです。

No.	該当箇所	意見の概要	市の考え方	計画への反映	頁
26	市の取組み	・社会資源の創出 新たなプラットフォームとして、地縁団体でなく、NPO等や、今まで地域福祉に関心のなかった層への効果的な働きかけをしてほしい。学校教育の中でもできることがあると思うので連携してほしい。	地域団体においては、担い手の不足や高齢化が進んでおり、地域課題を解決するためには、従前にも増して、社会福祉法人、企業、学校、NPO法人や専門職団体など、多様な主体と、幅広い視点で連携を検討していく必要があります。 地域コミュニティの活性化やまちづくりを推進するため、企業、NPO法人、学校、保育園やこども園など多様な主体との連携を促進して参ります。 また、学校教育の中で、この2年間は新型コロナウイルス感染症の影響で十分な活動はできていませんが、これまで、各中学校ごとに地域での様々なボランティア活動に取り組んでおります。 各地区の要望や要請があれば各中学校ごとの判断で地域活動に参加することは可能です。まずは、各地域団体と中学校との連携を図ることが必要であると考えております。	—	—
27	各種統計データ	区民意識に関するデータはあまりにもN数が少ない。地域活動に参加したくないという数字は実際はもっと多いと思う。地域活動参加者にデータに反映するよう折があるたびに呼びかけている。群部の5、6万の市でもN数はもっと多い。	今回の市民意識の調査は、本市WEBアンケート制度の枠組みを活用して実施したもので、回答数が前回よりも減少し、サンプル数をどれぐらいにするかについては今後の課題として残りました。今後は、限られた資源の中で最大限の効果を発揮することができるような方策を検討して参ります。	—	—
28	計画全般	「計画の進捗確認・評価について」 ・目標設定・評価の考え方 「評価にあたっては、プロセス、前年度との比較や外部要因、理由を含めて、多角的に分析・考察を行います。」と評価方法が不明確。 「今後の分析のため、市民アンケートなど意識調査の実施を検討します。」とあるが概して市で行うアンケートはN数が少なすぎる。どのデータをとってもN数の基準を決めるべきだ。Webのアンケートは以前3000人超えだったが今は1000人になっている？ 定量的と言うよりは定性的な事業が多い計画では、最近行われている手法の中で「OODA」ループが向いているので手法を研究されたらどうか、ただのABC評価は納得できない。 各部分ごとの、簡単な定形型ものはPDCA評価も可能だ。一概に否定する訳ではない。	取組みの評価については、各実施主体が自己評価したものを、地域の取組みは、各区支え合いのまち推進協議会、市の取組みは地域福祉専門分科会の委員の皆様へ評価していただいているところですが、ご意見を踏まえ、評価のあり方については、他都市の状況などを参考に引き続き検討して参ります。	—	—
29	市の取組み	提案1 担い手の高齢化の問題と活動拠点の確保 施設利用の特例を活用し又は条例を改正し（国のモデルがある条例は、既に種々複雑な社会の現状に合わなくなってきている）高齢者施設の利用は、六十歳以下を20%含めても良いと改め、地域活動のたまり場として活性化を図る。今の支え合い活動の末端は、自治会員による老老の支え合いしか考えられないため。 上記のように、顔の見える区政と言ってもバラツキが多く、決められたことを最低限にやっているようでは、この推進計画は動き出さない。	住民同士の助け合い・支え合いによる地域運営を持続可能なものとするためには、若い世代を含む幅広い方々の参加が必要だと考えておりますので、効果的な周知方法や工夫について引き続き検討して参ります。 また、地域福祉活動の拠点を確保するため、施設の目的に支障をきたさない範囲で市の施設を開放するとともに、社会福祉施設における交流スペースや空き家等の活用について、コミュニティソーシャルワーカーや生活支援コーディネーター等を支援します。 いきいきプラザ・センターなどの高齢者施設は高齢者の生きがいがづくりと健康増進、介護予防を設置の目的としており、高齢者以外の世代を含む地域活動の場としては市コミュニティセンター、公民館や住民が主体となって運営するサロン等、そして社会福祉施設における地域交流スペース等を整備又は支援しているところです。	—	—

「支え合いのまち千葉 推進計画推進計画（第5期地域福祉計画）【原案】」に対する意見の概要と市の考え方

※ご意見は可能な限り原文を尊重して公表させていただいております。

※ページ数はパブリックコメント実施時のものです。

No.	該当箇所	意見の概要	市の考え方	計画への反映	頁
30	市の取り組み	コミュニティソーシャルワーク機能の説明は、もっとはっきり書いて欲しい。	P 87の注釈に記載のとおり、生活課題を抱える方の個別支援を行うとともに、その中で地域の課題を発見し、解決する取り組みの支援を併せて行う機能と整理しております。	—	—
31	市の取り組み	・ 福祉教育の推進 「施策の方向2 多様な居場所づくり」の主な取り組み事業に、地域づくり拠点としての公民館の活用と書かれているが、定義を明確にしてもらいたい。 来年度より千葉市市民自治によるまちづくり条例が具体的に始まると聞いたが、既に、まちづくり条例を進めている他の都市では、公民館はまちづくり条例のための集会には使用出来ないということで、どうするかで議会を巻き込み揺れている。 公民館のホームページには、千葉市は「公民館は、地域の生活文化向上をめざし、市民ひとりひとりが豊かな人間性を培い、心豊かなまちづくりを進めるための教育機関です。」と書いているが明確な定義はしていない。 社会教育法第22条本文に、公民館は目的達成のために、おおむね、次に掲げる事業を行うとあり、6項目に、その施設を住民の集会その他の公共的利用に供すること、に変わってきているが明確ではなく、役所の窓口でも人によって言うことが異なる。この際社会教育法における公民館の定義を明確にして欲しい。	少子高齢化や核家族化により、地域や人のつながりが希薄化していく中で、地域づくりを進めていくためには、地域の担い手となる人材の発掘や育成、地域のさまざまな人たちがつながるための場の提供、複雑・多様化する地域課題の解決に向けた講座の企画・開催など、社会教育の機能を生かした取り組みが大変重要であると考えており、社会教育施設である公民館が地域づくりの拠点となるよう、多様な主体と連携しながら取り組んで参ります。	—	—
32	市の取り組み	・ 第5期計画への課題 課題は外で活動している社会ボランティアが感じていることと一致する。		—	—
33	市の取り組み	「市全体の課題、生活課題の複雑化、運用をまたぐ複合的な課題を抱える相談の増加」と言われるとおりであるが、受けた問題を他部署へ振るのが仕事だとい仕事範囲から一歩踏み出せないで、市民には理解できないし、課題が受け止められていない。複合化する前の単純な情報をはじめとし、情報の周知が基本と考える。 「情報とブッシュ」が、高齢者でなくても一番必要で面倒だが重要事項だ。 「カタカナ言葉や言葉の意味が分からない」が、高齢者の困りごとに出てくるが、計画の立案者や担い手の目線が受け手と合っていないことが分かる。	多岐の分野に渡り、様々なご意見をいただき、ありがとうございます。 いただいたご意見は、今後の取り組みの参考とさせていただきます。	—	—
34	市の取り組み	コミュニティソーシャルワーク機能の強化と言われるがこれは昨今のお話ではない。 下段に例として挙げたが、ある区の「支え合いのまち推進協議会」は全く機能していない。地域の担い手側としては、協議会の再編成から再度行うべきだ。現在、地域で行われている支援は、単純な行事の繰り返しでソーシャルワークになっていないと思う。何事も教育の繰り返しが必要になる、しかし、現在はどんな分野でもYouTubeが出回っているので考え方、やり方を変えれば実行可能だ。		—	—

「支え合いのまち千葉 推進計画推進計画（第5期地域福祉計画）【原案】」に対する意見の概要と市の考え方

※ご意見は可能な限り原文を尊重して公表させていただいております。

※ページ数はパブリックコメント実施時のものです。

No.	該当箇所	意見の概要	市の考え方	計画への反映	頁
35	市の取り組み	<p>・地域リーダーにはパソコンのスキルが必要</p> <p>最近のPCは、音声入力が主力で、クラウドを使用したデータの共有など、諸事に機能が利用でき、地域のビッグデータのグラフ化など、課題の推進には事務局のパソコン能力が高くないとボランティアが務まらない時代になってきた。</p> <p>遅ればせながら、次の担い手を考えると、今から教育に力をいれ地域全体に共通する課題に取り組める力をつける必要がある。</p>		—	—
36	計画全般	<p>職員も外へ出れば市民なので、市民意識を高めること。</p> <p>① 千葉市以外の人もいるわけで市民目線で比較してみると、市外の市町のほうが問題を具体的に見えるのではないか、</p> <p>② 立案者側も家族介護の実体験のある職員の感ずる問題点や、それに対する考え方を取り入れる事が、問題や解決策を具体的に受け手側に近づける方策だ。</p> <p>③ 支え合いの考え方の概念そのものが初期の頃から見ると動いていると国の作成ガイドに書かれていて頷けるが、今の社会は更に動いている。</p>		—	—
37	計画全般	<p>市民を巻き込んだ活動基盤は実施する市社協が作るわけではなく、各区の地域振興課が令和4年度から具体的に始める「市民自治によるまちづくり条例」の推進によって、これから徐々に作り込んで行くものだ。現場は基盤がない、一つは、自治会を育てようと言う意識がないからで、自治会は駄目だという意識を持ちすぎる。</p>		—	—
38	計画全般	<p>例えば「地域支え合いの会の促進 重点項目」とあるが、この会は市民センターで見守り活動の紹介の会合を10年以上前に行い、社協の誘いで初めて出席したが、それ以来 社会情勢にあった具体的な考え方や行動が向上していない。</p> <p>役所のフォローでしか成り立たない組織を続けるのは、改善でなくマイナスペクトルである。</p>	<p>多岐の分野に渡り、様々なご意見をいただき、ありがとうございます。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p>	—	—
39	計画全般	<p>今一つの問題は、支える側の高齢者に、部分的に認知機能の低下が見られる方がおり、話が噛み合わないでスルーすることが多々あることを認識すべきだ。これはやむを得ないことだが対応策の積み重ねが必要だ。</p> <p>来年度からこの役職の人たちは、男女共同参画センターの結城先生のYouTube「一人で頑張らない」を見てもらい意識のレベルを合わせてから始める必要がある。このYouTubeを見れば、社会的背景と今後何が求められているか位は理解できるが、それだけで全体が理解できるほど事態は簡単ではない。基本的には、介護経験がない場合や、家庭内自立が出来ていない（ジェンダー平等が理解できない）男性では事態や本質が把握できないので重要項目の進捗は望めない。</p> <p>それだけ現場は厳しく「助け合い支え合いのネットワーク網」は想像以上に細かく、実際に体験しないと 事態を想像し進められない。</p>		—	—
40	計画全般	<p>「シニアリーダー体操」の立ち上げ普及の際、人材と集会所の資源調査を行い。開催場所の不足で余裕教室の利用を教育委員会に申請した。参加者のデータを元に支え合いの会の脱皮を図ろうとしたが激しい抵抗にあい、行政のプッシュもなく会議型式を止め書面式に変えて現在に至っている。その時のとりまとめ役だった方は、今支え合いの会のメンバーの施設ヘイサーサービスに行くようになった。</p> <p>つまり、支え合いの会のような活動は、必要とする歳や状況になってみなければ、何が問題か理解できないと云うことである。</p> <p>実際に、家族の介護や看取り、そして連れ合いに負担をかけず自立した人でないと、問題や痛みが理解できないと言いたいのだ。</p>		—	—

「支え合いのまち千葉 推進計画推進計画（第5期地域福祉計画）【原案】」に対する意見の概要と市の考え方

※ご意見は可能な限り原文を尊重して公表させていただいております。

※ページ数はパブリックコメント実施時のものです。

No.	該当箇所	意見の概要	市の考え方	計画への反映	頁
41	地域の取り組み	<p>ある区の支え合いの会は資質のあるメンバーは揃っているが、運営する側が、会員の発言を十分に汲み取ること、良い事例を地域に展開する活動力が弱いことに問題がある。</p> <p>対策としては、当分の間は会長を女性にする、参加メンバーに他の地域のように公募委員や他の区のように地域福祉活動者を入れるなど工夫しないと、現状の文化は引き継がれてしまい、せっかくの人材が集まってもマンパワーは無駄になる。</p> <p>俗に云う偏差値が高い人は、メンバーによる話し合いや、聞き取りを行わず無難にまとめるので時代にそぐわない。</p> <p>福祉計画を、これだけ多岐・多項目に渡り列挙し、優先順位がないものをやろうとしても、住民が理解するには、地域が高齢化し理解するまでの時間が必要になる。</p> <p>基盤がない今、出来ることか、やり易いことから、成功体験を重ねるしか方策はない。</p>		-	-
42	計画全般	<p>・高齢者の単純な悩み（元気な支える側の高齢者も、悩みがある）</p> <p>高齢者の元気で車に乗らない人は、電車で中央区の市社協施設に行くし、買い物もバスで行く。しかし、大体の高齢者の悩みの種は何かと言うと、免許の返納である。</p> <p>一時介護は介護予防が大切なのに介護に走った時期があったが、そのパターンと同じで、免許が使える「脳と体の状態」を、どう長く維持するかが重要であり、返納させることではない。</p> <p>返納が、どう2次的問題を発生するか具体的に検討されていない。（旭市では一時免許返納がかなり増えたが、最近では逆に免許返納が減ったと市の広報に載っていた。）</p> <p>つまり、買い物も病院も家族まかせになり不便で生活が成り立たないということだ。</p> <p>バス路線の定期券利用が意外と多い。その結果、向かうところは千葉駅・千葉公園方面で、緑区おゆみ野は、いきいきセンターがなぜないのか、公民館がなぜないのかという意見が燻っている。</p>	<p>多岐の分野に渡り、様々なご意見をいただき、ありがとうございます。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取り組みの参考とさせていただきます。</p>	-	-
43	市の取り組み	<p>高齢者は必要な情報を受け取れない。スマホはあるがメンテができないので、情報を得る手段でないのが印象的だ。</p> <p>支え合いの力を高める主な取り組み事業に、スマホ講座の開催とあるが買った時は良いが、初歩的知識がなく時間が経ったものは重く簡単にはいかない。</p> <p>具体的には、LINE アプリを入れるだけで凄く2次被害が発生する。（ロックが掛けられず個人情報の流出する。）</p> <p>スマホは、年代や使用状態の差が複雑で、パソコンのメンテナンスより難しく危険に晒されることを知って欲しい。（自分の周りのスマホと同じ状態ではないということ）</p>		-	-
44	計画全般	<p>ここに揚げられた項目は、抽象的なので別冊の具体的な過去の事例集ダイジェストを作らないと、どういうことをどう処理しようとしているか一般人には読んでも理解できないものが多く、社会福祉法は難しい。事例集は県にある。</p>		-	-
45	市の取り組み	<p>・第5期 計画基本目標の取組方針について</p> <p>基盤整備のため市が行う取り組み</p> <p>3項目は基盤になるものだが、住民のネットワークがハッキリ見えないので何を捉えてそう言うのか、仕組みを作り込むことは難しい。</p>		-	-

「支え合いのまち千葉 推進計画推進計画（第5期地域福祉計画）【原案】」に対する意見の概要と市の考え方

※ご意見は可能な限り原文を尊重して公表させていただいております。

※ページ数はパブリックコメント実施時のものです。

No.	該当箇所	意見の概要	市の考え方	計画への反映	頁
46	計画全般	<p>市民自治によるまちづくり条例が始まるというが、各区の今年度の区の施政あり方について見ると、美浜区では、自治推進部が区民に身近な区役所の今後のあり方についてヒアリングをしている。</p> <p>区における総合行政の推進に関する要綱を見ると、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民生活に密着したサービスを効率的・効果的に提供する拠点 ・区民ニーズや地域課題に対して、即応の主体的な取組を展開する拠点 ・区民や地域が主体となり、地域の個性を生かしたまちづくりを推進する拠点 ・市政情報を積極的に発信するとともに、区民ニーズや地域課題を把握し、市の施策へ反映させる拠点 <p>と書かれているところから、これらの項目が実態として出来ていなければ、このパブリックコメントの案が議会を通っても実現する可能性は薄い。</p>		—	—
47	計画全般	<p>若葉区では、区長が来年度の「市民自治推進」を先取りしているのか、区内の各団体と話し合ったり、助言をしているというが、ごく当然のことではないか。</p> <p>若葉区のデータは非常にわかりやすい。地区部会別も14ある部会の内容がさらりと分かる。人口増加時代に飛び飛びに集落を多発させてしまったのは行政の責任でもある。</p> <p>千葉市周辺の群部と同じで、エリアが小さく自発的な地域だと、具体的なニーズが掴め活動計画が進む可能性が高い。どう住み易い中エリアにまとめるか、成功事例の横展開を進められるかを含め、行政の手腕が問われるが、その結果によっては人口の減少は止められない。</p> <p>しかし、中心部の街を維持する要員の居住者は多いので、中心部への交通の便を見直すことが最大の課題だと考える。</p>	<p>多岐の分野に渡り、様々なご意見をいただき、ありがとうございます。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。</p>	—	—
48	計画全般	<p>緑区では、区長は会合にも出ないし顔を見た者はほとんどいない。そのためか窓口は、自治会が近くの施設で総会が開けるようにしてくれと、言っても助勢もしてくれない。</p> <p>この地域福祉計画には地域拠点の確保、地域づくりの拠点としての公民館の活用をあげているが、おゆみ野では公民館の絶対数が不足しており、最近では住民からばやきが出ている。</p>		—	—
49	計画全般	<p>中央区では担い手づくりをあげているが、現状では、団塊の世代が75歳に近づいており、すぐ高齢者人口の谷間に入るのでボランティアは絶対数が足りない。</p> <p>問題は、自治会役員と高齢者が同じ世代で、最近では高齢者の男もパートに行く人が多く、地域ボランティアはデータ通り減少している。</p> <p>居住年数の短い住民は共助意識に乏しく、地域特性で同じ町内でも、被害者と支援者が発生することを周知するべきだが、自治会や防災会が主体的に取組み展開する拠点が無いので、房総台風時に、どんな被害がおゆみ野で発生したかも知らせるべきがない。</p>		—	—

「支え合いのまち千葉 推進計画推進計画（第5期地域福祉計画）【原案】」に対する意見の概要と市の考え方

※ご意見は可能な限り原文を尊重して公表させていただいております。

※ページ数はパブリックコメント実施時のものです。

No.	該当箇所	意見の概要	市の考え方	計画への反映	頁
50	計画全般	<p>おゆみ野は、千葉市の中で地価が安く、利便性が良いので周辺部の開発が進んでいるが、都市機能が最低限ないと、このような福祉計画も実施が不可能である。</p> <p>地域振興課の職員も受けた仕事を振るだけでなく、都市の経営が理解できるように教育すべきだ。</p>		-	-
51	計画全般	<p>若葉区に比べ緑区は地区部会が大きすぎる。特に土気地区のあすみが丘の、道ひとつ隔てて意識の大きく違う地区をひっくるめているが、これでは地域運営委員会はスタートしないし、福祉計画の方向性も定められない。</p> <p>大椎台団地は、多様な人が住み福祉計画活動の草分けだが高齢化が進み、残念ながら今は横展開するパワーがないように感じている。</p> <p>誉田町の民生委員の部会でエリアの見直しを行っていると言うが、緑区もこれを機会に地域マーケティングを折に触れ実施し、言葉による定性的目標設定でなく、数値データはグラフ化し現状を誰が見ても分かるようにしなければ何事も始まらない。</p>		-	-
52	市の取り組み	<p>提案2 心身の健康と交流の場づくり 活動の重層化による効率アップ</p> <p>以前と異なり高齢者が、ここまで多数になると「いきいきプラザ」のような投資金額の多い施設での催事の定員は人数が少なすぎ、非常に不公平であるし効率が悪い。多人数プランや自由参加型プランを増やしたり、公民館を循環し団塊の世代を元気にする必要がある。</p> <p>それにはシニアリーダー体操のサークルと協同で、体操以外のプログラムや情報提供、ポッチャを行う。体操は1時間半程度しか行わないので後の予約時間を活用できる。</p> <p>場所の確保、参加者集め、後片付けはサークル開催者が行うので、日程のマッチングをする程度で負担が少なく、効率は良いと考える。似たような情報提供は以前「あんしんケアセンター」が行っていたが、今はとても手が回らない。</p> <p>それと「いきいきプラザ」プログラムにはどれも含まれていないようだが、健康寿命延伸のための食のプログラムが必須である。（食育と健康寿命延伸の食の知識は別物である。パターンとして教えるだけなので、縦割りのためにできないのであれば、この際考え直して欲しい。）</p> <p>例として、東京都健康長寿医療センター研究所のLineアプリ「食べポン」を活用し食事の偏りを矯正するのは、簡単で効果がある。これは何を言いたいのか、シニアリーダー体操は75歳以上の高齢者では、慎重にやらないと却って関節を痛めたり、タンパク質不足だと筋肉が増えず、健康寿命の延伸を妨げる。健康寿命を延伸し、団塊世代を肉体年齢を引き下げ、要支援・要介護者を減らすことは、人口分布の山をなだらかにすることになり、地域の支え手を増やすことにつながるので重要な施策に該当する。</p>	<p>多岐の分野に渡り、様々なご意見をいただき、ありがとうございます。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。</p>	-	-
53	計画全般	<p>社会福祉士国家試験の合格に向けて教える問題に、わかりやすく、「地域福祉計画とは？」と地域福祉計画の目的を解説されている。</p> <p>「地域福祉計画って、どうやって計画を策定するの？」について、「地域福祉計画では、地域の様々な生活課題を解決するための仕組みづくりに向けた目標を立てた上で、概ね小学校区を単位とした住民座談会等で協議をしながら計画策定をしていきます。」と書いてあるのでびっくりした。</p>		-	-

「支え合いのまち千葉 推進計画推進計画（第5期地域福祉計画）【原案】」に対する意見の概要と市の考え方

※ご意見は可能な限り原文を尊重して公表させていただいております。

※ページ数はパブリックコメント実施時のものです。

No.	該当箇所	意見の概要	市の考え方	計画への反映	頁
54	成年後見制度利用促進基本計画	<p>・成年後見制度利用促進基本計画について</p> <p>数字で見ると成年後見人制度を必要とする人は確かに増えている。しかし、制度と書かれているが、旭中央病院の保護者会などの問題とされることは、親亡き後にどうやって暮らしていくかという問題が切実で、後見人をつけてもやっていけるような資産がある人は表には出てこない。</p> <p>補佐をつけるレベルの人は、多少資産があって自分の直系の身寄りがなく施設に入居するような人のようだ。</p> <p>認知症の場合は、一番の問題は、かかりつけの担当医はトラブルを避けて診断書を書きたがらないのが普通だ。</p> <p>司法書士が、二番の問題で、切羽詰まるまで放っておけと云う。ある意味で現実即していると思うが、困るのは不動産の遺産分割ができないことで、本人家族よりも周囲が迷惑を被るのが実態だ。後見人制度は損を認めないので、法定の分割になり不具合が生ずる。</p> <p>所有者のいない空き家が増えるのは、後見人制度を必要とする人の死後に所有権が宙に浮くからだ。（相続人全員が相続放棄をした場合も含まれる。）補佐人を利用という前提があって相続登記名義人の確定の縛りがないと利用は増えないと云える。</p>		—	—
55	その他	<p>・問題点</p> <p>相続登記は、まだ義務ではなく、また相続による名義変更をしなくても、納税通知書の送り先を特定の相続人に変更できるなど、税収上何ら不都合はない。なんとか行くので、行政もそれ以上手をかけない。従って最後につけは行政に回って来る。</p>	<p>多岐の分野に渡り、様々なご意見をいただき、ありがとうございます。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。</p>	—	—
56	地域の取組み	<p>・支え合いのまち推進計画</p> <p>基本理念 これは中央区の基本方針が一番具体的でやりやすい。</p> <p>基本理念に対し具体的な方策を考え実施し易いものから実施していく。それにはまず身近なコミュニティづくりがベースになるが、地域ルームのような交流の場は、絶対に必要であり、集うことで仲間が作られて発展していく。</p> <p>・身近なコミュニティづくりの推進</p> <p>・交流の場と仲間づくり</p> <p>・社会参加の推進</p> <p>⇒日の浅い住民が多いので地域運営委員会参加団体を核として行う。</p>		—	—
57	計画全般	<p>・地域の福祉力向上、担い手づくり 地域自治会+地区連</p> <p>これは何と言っても地域自治会と民生委員との連携した地域活動が一番効果がある。</p> <p>地域自治会に、防災と支え合いを加え、魅力ある地域団体にする必要があるが、現在の市民自治推進課には、そうしたプッシュ力がないのが一番問題を難しくしている。</p> <p>中井正一 千葉大名誉教授が、「千葉市の地盤特性は、隣が良くても自分の家の地盤が良いとは限らない。同じ地域でも、被害者と支援者に分かれる。」と問題提起をされた。</p> <p>福祉も災害ほど明確でないが、同じように2局が存在した状態だが気が付かない。</p>		—	—

「支え合いのまち千葉 推進計画推進計画（第5期地域福祉計画）【原案】」に対する意見の概要と市の考え方

※ご意見は可能な限り原文を尊重して公表させていただいております。

※ページ数はパブリックコメント実施時のものです。

No.	該当箇所	意見の概要	市の考え方	計画への反映	頁
58	計画全般	・相談体制 情報の提供の場づくり あんしんケアセンターを核とし民生委員が連携し、自治会を通して伝達するのが一番効率が良い。（今の高齢者には情報が届いていない。上の高齢者ほど情報提供の場と相談体制を接近させないと孤立してしまう。役員が出来ないと自治会を止め自立するよう孤立する。）		—	—
59	市の取組み	・結び 自分の地域を、計画の「取組方針」内容でチェックしてみた。（No5 9～6 7） ・第5期計画の基本理念・基本目標・取組方針・施策の方向 取組方針Ⅰ「地域の支え合いの力を高める」 施策の方向1 持続可能な地域づくり ・自治会活動 区画整理活動の延長で話し合いになれ、お互いに行き来があり総会は夫婦で出席する習慣ができており上手くいっていた。 しかし、その後会長が体調不良であったために、人事のゴタゴタ等が続き地域が暗くなり外へ出て話す人もいなくなりました。その割合に敬老会の出席者は毎年多かった。		—	—
60	市の取組み	施策の方向1 持続可能な地域づくり ・民生委員 行政区に合わせ小学校区もおゆみ野に変更し生活圏が誉田町でなくなったが、民生委員は誉田部会であった。社協も小学校区もおゆみ野でありながら、民生委員・児童委員は部会の話合いに誉田部会から来ると言う状態が15年近く続いた。そのため行事には参加せず年1回の訪問調査しか接触の機会がなかった。やっと令和4年度からおゆみ野地区部会に移管になる。	多岐の分野に渡り、様々なご意見をいただき、ありがとうございます。 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	—	—
61	市の取組み	施策の方向2 多様な居場所づくり 誉田町に属していた時は、すぐそばに誉田町自治会館があったので何かと言うと会合をしていたが、誉田町を離れてからは使用できなくなり、会合の機会は年1回のふれあい館に於ける総会だけになった。		—	—
62	市の取組み	施策の方向3 介護予防・健康づくり、生きがいづくり シニアリーダー体操に参加している人は、他の地区に比べ極端に少なく、フレイル度は高く、毎年なくなる人が続いている。		—	—
63	市の取組み	施策の方向4 誰もが安心して暮らせる地域づくり 市の便りより身の回りに近い情報が極端に少ない。車に乗る人も減っており、あんしんケアセンターに結びつく情報など入る術もない。 また、民生委員もパソコンが得意でないので情報伝達は難しいという。		—	—
64	市の取組み	施策の方向5 福祉教育・啓発 サークル参加者を増やし、サークルの場で伝達しないと伝えるのは難しい。		—	—

「支え合いのまち千葉 推進計画推進計画（第5期地域福祉計画）【原案】」に対する意見の概要と市の考え方

※ご意見は可能な限り原文を尊重して公表させていただいております。

※ページ数はパブリックコメント実施時のものです。

No.	該当箇所	意見の概要	市の考え方	計画への反映	頁
65	市の取組み	取組方針Ⅱひとりぼっちにしない断らない相談支援体制を構築する 施策の方向1 包括的な相談支援体制の構築 自治会内に民生委員一人という構成で会長と民生委員の連携が取れる組織がやりやすい。朝のゴミだし一つにしても簡単なよう総会が開けないと実行に持込むのは大変である。	多岐の分野に渡り、様々なご意見をいただき、ありがとうございます。 いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。	-	-
66	市の取組み	施策の方向2 生きづらさを抱えている人への支援 現在は、第2世代団塊ジュニア層に世代交代の時期である。どんな人材がいるか分からなくなっている。		-	-
67	市の取組み	取組方針Ⅲ 社会資源の創出を促進する 施策の方向1 多様な主体との連携 建売業者単位に小さな自治会が増えているので、HD方式で自治会を多人数にし、役員の数を減らし地域福祉担当役を作るのが得策だと考えている。		-	-
68	計画全般	・重要な問題点1 行政の問題 目線が市民目線より高すぎ具体的に問題が捕らえられていない。地域福祉計画の重要問題は地域のマーケティングから始まる。従来の、決められたことを忠実に実行するタイプの人には、時代の変わり目の今、これまでと異なる自治体の運営方式を導き出す思考回路は持ち合わせていない。		-	-
69	計画全般	・重要な問題点2 地域ネットワークについて。 1) 自治会内外の日頃の交流が非常に大事である。 2) 地域内外の、ネットワークそのものを地域に合わせて再編成することが必要。 3) 高齢者には情報が何も行き渡っていない。(自分で求めていく人は少ない。) 民生委員・あんしんケアセンターの連携をもとに必要な情報を自治会経由で閲覧することも重要な策と考えるが、集会で説明しないと弱い。		-	-
70	計画全般	・重要な問題点3 地域ルーム(溜まり場)の重要性を理解する。 集会場は小は大を兼ねない。議会でも言われる100人規模の集会所が必要である。自治会館では持続可能な地域づくりのネットワークは作れない。		-	-

「支え合いのまち千葉 推進計画推進計画（第5期地域福祉計画）【原案】」に対する意見の概要と市の考え方

※ご意見は可能な限り原文を尊重して公表させていただいております。

※ページ数はパブリックコメント実施時のものです。

No.	該当箇所	意見の概要	市の考え方	計画への反映	頁
71	その他	<p>・参考資料</p> <p>今年の県の防災のスキルアップ研修で南房総市の丸山地区・大井区の過疎集落での総ぐるみの房総台風後の生き残り活動が紹介された。130世帯250人が軽トラしか通らない山道で結ばれている。南房総市でも福祉関係者が視察に行っているが、それまで知られていなかった。</p> <p>「ポツと一軒家」の集合体で、やがて千葉市もこういう集落がやがて発生すると云えるが、問題が明確になれば、それなりの対応も工夫も出来るのかもしれない。</p> <p>こういう持続可能な集落活動づくりは非常に基本的な面で参考になる。</p> <p>感心したのは、竹槍でなくドローンや軽自動車、大型発電機、防災無線等、我々が使いこなせない新兵器を導入し、泥臭くやっているとところが非常に参考になった。</p> <p>ただ一つ栄養の知識が欠けているので、フレイルの発生が考えられる。特徴は、行政との間にグレーゾーンを発生させ、それを新しい知恵で取り込むことで高齢者でも予想以上のパワーを発揮しており、従来の災害時の行動と違って感心させられた。</p>	<p>多岐の分野に渡り、様々なご意見をいただき、ありがとうございます。</p> <p>いただいたご意見は、今後の取組みの参考とさせていただきます。</p>	—	—
72	その他	<p>・南房総市丸山地区 大井区の助け合い事例 P D F （配布許可あり）</p> <p>これは、県の災害対策コーディネーターのスキルアップ研修会資料です。</p> <p>・防災会 カワセミ共同事業の紹介 ・災害対策本部の機能</p>		—	—